

気付かなかった  
価値を再認識できた



縁日スタッフやメディア対応など

滝浪利枝さん (大間)

縁日スタッフや広報、メディア対応などを担当しています。私たち地元の間では身近すぎて気が付かなかった「落ちない大石」の価値を、検討チームの人たちが気付かせてくれました。この「大石」が地域の宝として定着していくよう、私も頑張りたいと思います。

さまざまな視点で  
さらに意識が高まる



ポスターのデザインや製作担当

安藤慎悟さん (湖西市)

湖上駅のモニュメントをPRするポスターを作成しました。実際に現地に行って撮影したり、レイアウトを工夫したりと魅力あるポスター作りに苦心しました。さまざまな視点の人が関わることで「より良いものにしていこう」という意識が高まっています。

まだ始まったばかり  
息の長い努力が必要



ほこらやのぼり旗の設置など

大原民三さん (大間)

落ちない大石へと続く参道に「のぼり旗」を立て、大石にはほこらを設置（位置検討も）しました。まだ活動は始まったばかりです。私も来年は受験生を持つ親。今後も、大勢の人の手で取り組みながら、地道に息の長い努力を続けていきたいですね。

親睦を深めることで  
見える新しい方向性



愛の鍵かけモニュメント製作など

酒井満さん (地名)

湖上駅の愛の鍵かけモニュメントの製作やPR方法の検討などに携わっています。どうすれば広い対象者に井川線を楽しんでいただけるか、その可能性を探っています。大勢の人と接し、親睦を深めながら活動することで、新しい方向性が見えてきます。

大井川未来予想図検討チームのメンバー、地域住民、各種団体などが協力して展開したまちづくり実践  
そこに、どんな努力があり、どんな成果を見たのか  
何が生まれ、どんな効果もたらされたのか  
それぞれのメンバーに「今」の声を聞いてみた

# 「収益や集客ばかりが 成果」じゃない。

地域の資源同士を結びつけた商品を作ることができないか  
この小さなお茶一つにも多くの人の手関わっています



私は両国でお茶屋を営んでいます。寸又峡に一服どころを出店しているご縁で、地元温泉組合の方から、新しい商品を作ってほしいと依頼がありました。本町の特産品である「川根茶」、そして現在地元の皆さんが熱心に取り組んでいる「天狗の落ちない大石」。この2つを組み合わせたグッズ（お土産）を作れないかということだったんです。

落ちない茶。を製造した

長嶋一男さん

長島園・寺馬

寸又峡温泉活性化検討チームのメンバーにパッケージやネーミングを考案していただきました。打ち合わせの中で「気軽に持ち帰れるものを」ということで煎茶パックの形になりました。ほかのグッズと併せ、この商品が落ちない大石のPRの一助になればと思います。この小さなお茶一つをとっても、多くの人の手で作られているんです。



ちらばる資源を  
知るきっかけとして



アシスタントとして縁日などに参加

望月礼子さん (田代)

活動には途中から参加しています。チラシ作りや縁日スタッフなどをしています。本町にはたくさんの地域資源がありますが、それを知らない人も多いのでは。本活動はそれを知る一つのきっかけでもあります。大間の活性化が町全体に広がっていけばうれしいです。

協力し合うことで  
一体感が生まれた



外森神社参道整備や絵馬かけ設置

村田吉市さん (浜松市)

地元温泉組合の人たちや町内建設業の皆さんなどと一緒に絵馬かけの設置、参道の階段整備などを手がけました。作業は大変でしたが、同じ目的を持ち、みんなで協力して取り組むことで一体感が生まれました。今後も集客に向けた活動に取り組んでいきます。

▼奥大井湖上駅に設置した愛の鍵かけモニュメント。メンバーの一人は「たまに見に行くんですが、まだまだ鍵の数が少ないですね」と話していた。



この日も一つの物語  
広報かわねぼんちよう